

亀山市生涯学習計画(骨子案) に対する意見への回答

【個別意見】

整理番号	該当ページ	項目	意見	回答
1	10 14	第2章 前計画の成果の検証と評価 1 亀山市の生涯学習の取組状況 2 めざす姿の基本施策ごとの主な課題	電子図書館の記述が「利用促進等が求められています」の一文にとどまる。また、貸出冊数・来館者数・登録率といった基幹的な指標が前計画にも新計画にもない。新図書館を「知の拠点」に据えるのであれば、基幹指標を設定し、学校図書館との連携や子どもの読書活動推進計画との関係も明記されたい。	計画素案の作成に当たり、課題の整理や取組、指標の設定について検討します。
2	12 16	第2章 前計画の成果の検証と評価 2 めざす姿の基本施策ごとの主な課題 第3章 亀山市生涯学習計画の体系 2 生涯学習計画のめざす姿と施策の方向	1 2 ページで「かめやま健康都市大学」と「かめやま人キャンパス」「中央公民館講座」の役割分担に曖昧さがあることを課題として挙げながら、新しい基本施策からは「かめやま人キャンパスを核とした学びの循環の創出」という項目が消えている。整理の結論（どの事業がどの役割を担うのか）を計画に明記されたい。	次期計画では、「かめやま健康都市大学」、「かめやま人キャンパス」及び「中央公民館講座」の役割分担や関連について、基本施策「健康都市の実現に向けた学びの循環」において、記載します。
3	13	第2章 前計画の成果の検証と評価 2 めざす姿の基本施策ごとの主な課題	市民が学んだことや培ってきた経験を地域や次世代へ還元する「学びの循環」を実現するためには、学び手が単に知識や経験を提供するだけでなく、現在の子どもたちに適した形で伝えることができる環境を整えるべきである。特に、子どもへの指導経験がない市民や、長期間のブランクがある市民に対しては、現在の子どもの特性や指導方法等を学ぶ機会を市が設け、学びを地域や次世代につなげるための支援を行うことを記述すべきである。	施策の方向「学びの好循環で持続可能な地域を創る実践」において、記載内容を検討します。
4	13	第2章 前計画の成果の検証と評価 2 めざす姿の基本施策ごとの主な課題 めざす姿2 地域と一体的に推進する、子育てを支える「学び」 ①地域・家庭の学びの展開	「関心の薄い層や多忙な層へのアプローチが課題です」で記述が止まっている。働く世代や若者が参加できる時間帯の設定、オンデマンド配信、事業所との連携など、届かせるための具体策を計画に書き込まれたい。生涯学習は、来られる人だけの学びになりやすいという前提に立って設計されたい。	計画素案の作成に当たり、「地域・家庭の学びの展開」について、生涯学習は、来られる人だけの学びになりやすいという御意見も踏まえ記載内容を検討します。
5	13 14	第2章 前計画の成果の検証と評価 2 めざす姿の基本施策ごとの主な課題	青少年育成市民会議・子ども会の役員の高齢化、コーディネーターの確保、日本語ボランティアの高齢化と、担い手不足が繰り返し課題として挙がりながら、いずれも「重要です」や「必要です」で終わっている。担い手の確保・養成を独立した施策として立て、養成講座の規模、人材バンクの登録者数の目標、謝金等の処遇を示されたい。	前計画における課題の抽出であるため、記載のような表現になっています。計画素案の作成に当たり、課題の記載や目標設定については検討しますが、謝金等条件の処遇については、利用者と登録者で直接交渉することとしており、本計画への記載については考えておりません。
6	15	第3章 亀山市生涯学習計画の体系 1 基本理念と基本目標	基本理念について、「豊かな自然と歴史文化の中で深まる学びと交流」としているが、自然や歴史文化を前面に出した表現となっており、生涯学習が持つ多様な学びや、人づくり・地域づくりなどの理念全体を十分に表現しているとは言い難い。計画全体の方向性を包括的に示す基本理念として、個別の施策や地域資源に限定されない、生涯学習全体を表現するものとすべきである。	基本理念については、「第3次亀山市総合計画前期基本計画」が目指す将来都市像の実現に向け、国の「第4次教育振興基本計画」が掲げる基本方針を踏まえ、「持続可能な社会の創り手の育成」と「亀山に根差したウェルビーイングの向上」の2つの視点を内包させつつ、前計画の基本理念を継承するものであり変更は考えていません。 しかしながら、生涯学習は、学校教育・家庭教育・社会教育・個人の学習など多様な学びの領域であり、学びの中で様々なつながりにより、地域づくり、人づくりにつなげられるよう各施策を検討します。

亀山市生涯学習計画（骨子案）に対する意見への回答

【個別意見】

整理番号	該当ページ	項目	意見	回答
7	16	第3章 亀山市生涯学習計画の体系 2 生涯学習計画のめざす姿と施策の方向	成果指標・目標値が示されていない。前計画では、地域の読書活動拠点数が目標30か所に対しR7実績3か所、図書ユニットの訪問回数が目標100回に対し16回、「かめやま人」と協働で実施した講座が目標5回に対し1回と、未達が集中している。未達の原因分析を示したうえで、次期の指標は開催回数ではなく「継続している活動の数」「地域で実際に活動を始めた修了者の数」で設計されたい。	計画素案の作成に当たり、課題の整理などにおいて、原因の記載について検討します。なお、骨子においては指標等は記載していませんが、素案においては、御意見も参考に指標を設定します。